

「植田調」技法で 砂丘撮影に挑戦

東京の写真学生ら

第一線で活躍する写真家を数多く輩出している専門学校「東京ビジュアルアーツ」(東京都千代田区)の学生が11日、県出身の写真

家、植田正治の「植田調」を意識した鳥取砂丘での写真撮影に臨んだ。植田調は、砂丘や人をオブジェのように写真に配置する植田一流の演出的な撮影法で、学生たちは傘やたこなど演出の小物を持ち参り撮影に臨んだ。

撮影会は「とっとり

ブランド戦略会議」が企画。学生が撮影した写真を学校のサイトに掲載するなどして、同市の魅力を広く発信するのが狙い。

写真学科とマスコミ編集学科の5人が参加。一行は10日に伯耆町にある植田正治写真美術館を訪れ植田作品を鑑賞。植田調について、学芸員などから事前に話を聞き撮影に臨んだ。植田に師事した写真家、瀬尾浩司さんが講評する。

【加藤結花】



傘などの小物を使い、写真を撮る学生＝鳥取砂丘で